

進路指導室から 第361号

はじめに

文部科学省は、教員不足の実態に関する初めての全国調査結果を公表しました。それによると、全国の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に今年度当初に配置された教員数は、各教予定していた教員数に比べて2558人不足しており、全体の5.8%の1897校が該当するとのこと。

その背景に教員の業務量の増加が影響しているようです。一番効果のある教育とは、個々の子どもたちと課題を共有し、その改善に向けて子どもたちと実践していくことだと思います。そのためには、子どもたちを支える教員に身体的・精神的な余裕が必要です。しかし、なかなかその余裕がないのが実態です。大学の学部選択においても教育学部への希望者が減少しつつあります。教員の取組が社会の中で評価され、魅力あるものと認識されるようになることが必要だと思っています。

「小論文講演会」について

2月3日(木)に学研学力開発部 小論文入試問題分析プロジェクトチーム・リーダーの大堀 精一先生を講師としてお招きし、「小論文講演会」を行いました。今年は昨年と同様、オンラインでの実施となりました。

まず、大堀先生から、「小論文を考える前提」として、①小論文の出題の基本は社会問題、②社会「問題」という言葉は社会のマイナス面を含意する、③テーマにはプラス面とマイナス面があるが、小論文の出題の中心はマイナス面になる、ことを示していただきました。



続いて、「日本の社会問題を考える前提」として、①日本の社会は「格差」社会である、②社会の中に居場所を見つけられない人とそうでない人がはっきり分かれることを意味する、③格差の拡大は貧困の増大につながり、「格差・貧困」問題とも言う、ことをあげられました。

ところで、「SDGs」という言葉が広く社会の中で浸透しつつあります。「SDGs」には17の目標が設定されています。多くの目標が達成に向けて改善されていますが、「人や人間の不平等をなくそう」はむしろ悪化しており、日本は格差が拡大しているのが現実です。また、大堀先生は、新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちが気づかなかつた、あるいは見ようとしなかつた現実問題が浮き彫りにされたことを指摘されました。例えば、新型コロナウイルス感染症により、社会的に弱い立場の人は居場所を見つけにくくなりました。その一方で、「子ども食堂」や商店街の町おこし企画などにより、新たな公共(コミュニティ)の構築が模索されましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により分断され、格差の問題はさらに広がっています。

では、「社会」問題を考え、そして「書く」ことにどんな意義があるのでしょうか。大堀先生は、自身の著『小論文 書き方と考え方』(講談社選書メチエ)の中で以下のように記されています。

ここまで述べてきたことをさらに「書く」ということに結びつけるため、福島県のある高校で教壇に立ち続けたT先生の言葉を紹介したい。東日本大震災から4年あまり後に首都圏の高校で講演されたときの言葉だ。

2011年3月11日、T先生は勤務先の高校で生徒とともに被災した。高校は地震と津波に加えて原発事故による汚染という3つの被害を受けた地域の一角にあり、通学路沿いの土地に除染作業で集められた廃棄物の袋が野積みされた光景を目の当たりにしながら生徒が通学した時期さえあったという。このように現代日本の最も厳しい現実を生きる生徒たちに向かって先生は、それでも現実を知り、現実と向き合い、それを乗り越えていくように励まし続けてきた。その日々を振り返りながら先生は、これからの社会を生き抜かねばならない若い世代に必要なものが何であるかを語った。そのときに言われた忘れられない言葉がある。

《勉強するのは、「知らないこと」で大人から差別を受けないためです。これは一番辛い差別です。それと目の前にある厳しい現実を乗り越えるためには、知らないとダメなんです。《中略》そして言葉。「抽象語の構築こそ、コミュニケーション」です。語彙力はつけたほうがいい。言葉でしか伝わらないし、コミュニケーションにならないから》(『被災地から社会を見つめ、言葉を紡ぎ続けていく』「学研・進学情報」2016年3月号、一部改変)

知らなければ社会に出てから差別され、馬鹿にされ、だまされることさえある。それをはねのけるには、現実と向き合い、それを乗り越えるすべを学ばなければならない。しかし、現実社会は価値観の違う人間の集まりだ。だからこそ、相手に思いを的確に伝えるために「自分の言葉を持つ」必要があるのだ。被災し、厳しいだけでなく理不尽でさえある現実を背負わされた地域の生徒たちに向けて、あえて発せられたこのメッセージを、私は「書く」ことの原点を言い当てた言葉としてくり返し伝えてきた。

「令和4年度大学入学者選抜実施要項に関するQ&Aの更新」について

文部科学省は、1月31日(月)に、「令和4年度大学入学者選抜実施要項に関するQ&Aの更新」について、以下のように都道府県教育委員会並びに各大学等に通知しました。「濃厚接触者」の扱いが変更されていますので、注意してください。

□ 概要

- ・ 現在、自治体によっては、オミクロン株の感染拡大により保健所が濃厚接触者の特定後、行政検査を実施できない、といった状況が生じています。
- ・ こうした自治体に限り、濃厚接触者と特定された受験生は、発熱・咳等の症状がなければ、基本的に別室で受験ができます。
※ 抗原定性検査キットが入手できる場合には、大学の求めに応じ陰性確認を提示できるようにしておいてください。
- ・ なお、ここでいう濃厚接触者は、保健所が特定した場合に限っていますので、保健所からの特定がない場合は、通常どおり、発熱・咳等の症状がなければ受験できます。

〔令和4年度大学入学者選抜実施要項に関するQ&A〕

| | |
|------------|---|
| Q63 | オミクロン株の感染拡大により、保健所が濃厚接触者の特定を行えない、もしくは特定をしないと言っているが、特定されていない場合は受験させてもいいのか。 |
| A | 特定を行わないこととした自治体の受験生は、濃厚接触者として特定されていない以上、通常通り受験することが可能です。ただし、受験当日も無症状であることは必須であり、発熱・咳等の症状があるなど体調不良の場合は、まずは、かかりつけ医等身近な医療機関に電話で相談し、その指示に基づいて行動するようにしてください。 |
| Q64 | 新型コロナウイルスの感染が急拡大する中、保健所業務の逼迫を理由に濃厚接触者の認定後、行政検査が実施できない自治体の受験生は受験できないのか。 |
| A | 行政検査の結果が得られないため、可能であれば抗原定性検査キットにより陰性確認を行った上で、発熱・咳等の症状がなければ、別室での受験が可能です。なお、当該キットが入手できない場合は、発熱・咳等の症状がないことを十分に確認した上で、別室での受験が可能です。ただし、当該取扱いは、あくまで保健所業務の逼迫により、行政検査の実施ができない場合に限るため、今後取扱いが変更となる可能性があります。 |

「令和4年度国公立大学入学者選抜試験日程別試験志願状況」について

文部科学省は、2月4日(金)に「令和4年度国公立大学入学者選抜試験日程別試験志願状況」を発表しました。国公立(前期・中期・後期)合計は募集人員98,564人に対して、志願者数が409,259人で、志願倍率は4.2倍でした。なお、前年度の確定志願志願者数は425,415人で倍率は4.3倍でした。

志願倍率を学部系統別にみると、「人文・社会」4.3倍、「理工」4.1倍、「農・水産」3.9倍、「医・歯」4.3倍、「薬・看護」4.9倍、「教員養成」3.3倍、「その他」4.4倍となっています。なお、独自日程で試験を実施する国際教養大学、新潟県立大学、叡啓大学、芸術文化観光専門職大学は、独自日程による試験実施のため含まれていません。確定した志願者数と倍率は22日(火)に発表されます。

〔令和4年度国公立大学入学者選抜試験日程別試験志願状況(最終日15時時点)〕

| | 試験日程 | 出願受付実施 大学・学部数 | | 令和4年度入学者選抜 | | | 令和3年度入学者選抜 | | |
|-----|------|------------------|-------|------------|---------|------|------------|---------|------|
| | | | | 募集人員 | 志願者人員 | 志願倍率 | 募集人員 | 志願者人員 | 志願倍率 |
| 国立 | 前 | 82大学 | 391学部 | 63,579 | 172,902 | 2.7 | 63,716 | 177,128 | 2.8 |
| | 後 | 72大学 | 282学部 | 12,949 | 118,228 | 9.1 | 13,201 | 118,753 | 9.0 |
| | 計 | 82大学 | 392学部 | 76,528 | 291,130 | 3.8 | 76,917 | 295,931 | 3.8 |
| 公立 | 前 | 87大学 | 192学部 | 16,320 | 51,097 | 3.1 | 16,210 | 58,225 | 3.6 |
| | 後 | 63大学 | 138学部 | 3,367 | 37,246 | 11.1 | 3,487 | 42,168 | 12.1 |
| | 中 | 24大学 | 32学部 | 2,349 | 29,786 | 12.7 | 2,364 | 29,901 | 12.3 |
| | 計 | 90大学 | 202学部 | 22,036 | 118,129 | 5.4 | 22,061 | 129,484 | 5.9 |
| 国公立 | 前 | 169大学 | 583学部 | 79,899 | 223,999 | 2.8 | 79,926 | 235,403 | 2.9 |
| | 後 | 135大学 | 420学部 | 16,316 | 155,474 | 9.5 | 16,688 | 190,921 | 9.6 |
| | 中 | 24大学 | 32学部 | 2,349 | 29,786 | 12.7 | 2,364 | 29,091 | 12.3 |
| | 計 | 172大学 | 594学部 | 98,564 | 409,259 | 4.2 | 98,978 | 425,415 | 4.3 |

終わりに

いろいろな種類やブランドのいちごがスーパーや果物店に並ぶ季節になりました。いちごは、へたと反対側の先端(果頂部)のほうが糖度が高く、まずへたを取り外し、へた側から食べると最後まで甘味を感じられるとのことです。
(文責：進路指導部 池本 邦彦)